

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|------|
| ① 国語 | 68 人 |
| ② 算数 | 68 人 |
| ③ 理科 | 68 人 |

5 留意事項

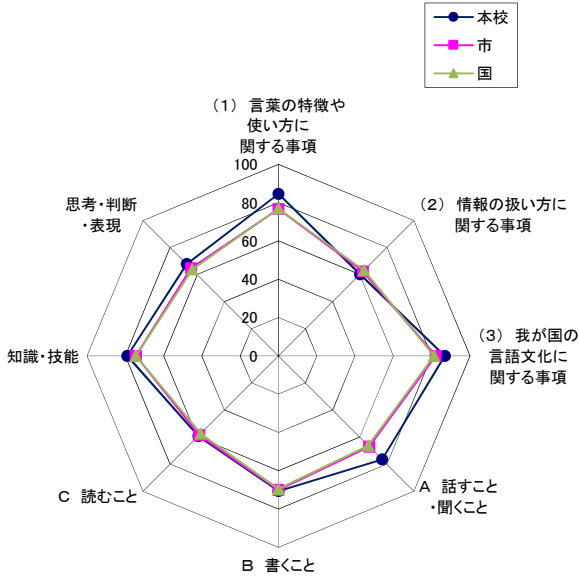
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	84.6	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	60.3	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	86.8	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	76.5	67.0	66.3
	B 書くこと	70.6	70.0	69.5
	C 読むこと	59.2	58.6	57.5
観点	知識・技能	79.0	74.5	74.5
	思考・判断・表現	67.8	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

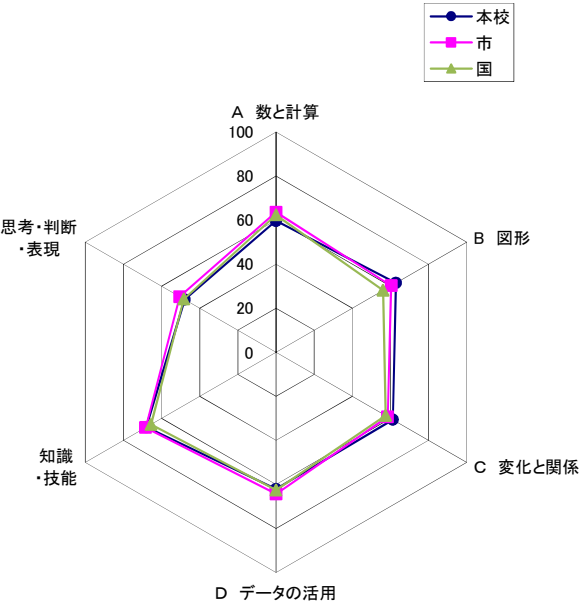
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	・領域の正答率は84.6%で、全国よりも7.7ポイント高い。 ○漢字を正しく書く問題の正答率は、「好(み)」が89.7%、「暑(い)」が79.4%で、2問とも全国よりも7.0ポイント以上高い。	・漢字について、音読み・訓読みをしっかりと押さえ、漢字の成り立ちを確認したり、書き順を丁寧に指導したりする。
(2) 情報の扱い方に関する事項	・領域の正答率は60.3%で、全国よりも2.8ポイント低い。 ●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を問う問題の正答率は60.3%で、全国よりも2.8ポイント低い。	・メモの取り方の工夫や考えを図に分かりやすく表すことで、情報のキーワードを見付けたり、整理したりする力をさらに付けさせていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	・領域の正答率は86.8%で、全国よりも5.6ポイント高い。 ○時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを問う問題の正答率は86.8%で、全国よりも5.6ポイント高い。	・読書や異なる世代の人にインタビューをすることなどを通して、昔の文化や世代による言葉の違いを実感しながら、多様な視点から物事を考えることができるようにしていく。
A 話すこと・聞くこと	・領域の正答率は76.5%で、全国を大きく上回り、10.2ポイント高い。 ○話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかを問う問題の正答率は80.9%で、全国よりも7.2ポイント高い。 ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかを問う問題の正答率は70.6%で、全国を大きく上回り、17.3ポイント高い。	・自分の考えをまとめることができるように、国語だけでなく、学習活動のあらゆる場面で、目的や意図に応じて自分の考えを伝え合う指導を継続していく。
B 書くこと	・領域の正答率は70.6%で、全国よりも1.1ポイント高い。 ○書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらせたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかを問う問題の正答率は70.6%で、全国よりも5.1ポイント高い。 ●目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかを問う問題の正答率は63.2%で、全国よりも1.9ポイント高いが、無解答率が8.8%であり、課題があると言える。	・目的や意図に応じて簡単に書く部分と詳しく書く部分を決め、事実と感想、意見とを区別し、資料から引用して書くなどの活動を設定し、書くことの指導の充実を図る。
C 読むこと	・領域の正答率は59.2%で、全国よりも1.7ポイント高い。 ○時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかを問う問題の正答率は89.7%で、全国よりも8.1ポイント高い。 ●目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかを問う問題の正答率は38.2%で、全国よりも2.6ポイント低い。 ●言葉の変化に関する複数の資料を読み、自分が納得したことやその理由を、それらの資料から言葉や文を取り上げて記述する問題の正答率は57.4%で、全国よりも1.1ポイント高いが、全問題の中で無解答率が最も高い11.8%となっている。	・読書の記録の累積と、説明文や物語文から要旨を捉える学習を通して、複数の情報から必要な情報を見付ける指導を継続していく。

宇都宮市立雀宮中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	59.7	63.6	62.3
	B 図形	62.9	60.4	56.2
	C 測定	52.9	56.9	54.8
	C 変化と関係	61.3	58.6	57.5
	D データの活用	62.1	64.4	62.6
観点	知識・技能	68.0	68.3	65.5
	思考・判断・表現	47.9	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

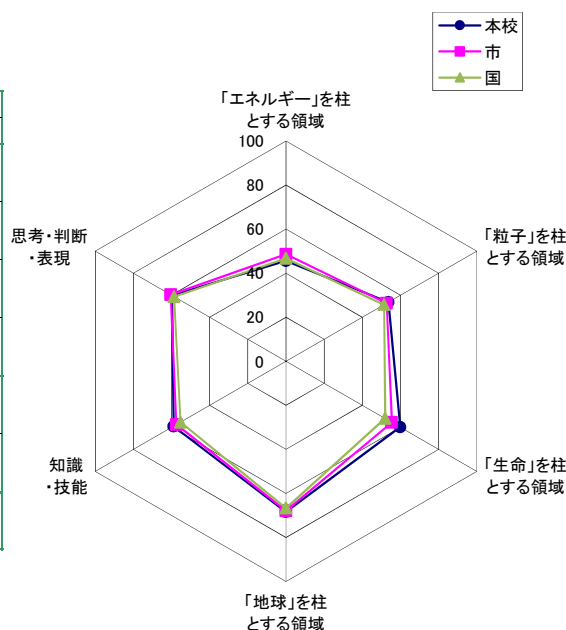
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	・領域の正答率は59.7%で、全国よりも2.6ポイント低い。 ○小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかをみる問題の正答率は75.0%で、全国よりも0.9ポイント高い。 ●分数の加法について、通分をした上で単位分数の幾つ分かを、数や言葉を用いて記述する問題の正答率は16.2%で、全国よりも6.8ポイント低い。無解答率は全問題の中で最も高く、17.6%である。	・練習問題に取り組みさせることにより、問題場面の数量の関係を捉え、何を求めるものなのかをはっきりさせた上で式に表すことの習熟を図る。 ・日常の具体的な場面に対応させて、分数の性質や分数の計算に必要な既習事項を生かして解答できるようにする。 ・記述式の問題に触れる機会を増やし、数の意味と表現、計算に関して成り立つ性質に着目し、多面的に捉え、筋道立てて説明する力を伸ばしていく。
B 図形	・領域の正答率は62.9%で、全国よりも6.7ポイント高い。 ○台形の意味や性質について正しいものを選ぶ問題の正答率は64.7%で、全国よりも14.5ポイント高い。 ○角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ問題の正答率は86.8%で、全国よりも7.5ポイント高い。また、全問題の中で最も高い正答率であり、無解答率も0.0%であった。 ●五角形の面積を求めるために、五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述する問題の正答率は41.2%で、全国よりも4.2ポイント高いが、図形領域の中で最も低い正答率である。	・作図をするために必要な構成要素を再確認し、実際に作図をさせながら理解を深められるようにする。 ・様々な図形に関する問題に多く触れるようにし、図形の構成要素や性質を活用して、面積や体積を求められるようにする。
C 測定	・領域の正答率は52.9%で、全国よりも1.9ポイント低い。 ●はかりの目盛りを読む問題の正答率は60.3%で、全国よりも0.6ポイント低い。はかりを正確に読むことのできない児童が約4割いるということは課題があると言える。	・1目盛りが表している単位量の求め方を再確認する。日常の中で、他教科とも関連付けながら、実際にはかりの目盛りを読む場面を多くすることで理解を深める。
C 変化と関係	・領域の正答率は61.3%で、全国よりも3.8ポイント高い。 ○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかをみる問題の正答率は86.8%で、全国よりも4.0ポイント高い。 ●伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述する問題の正答率は45.6%で、全国よりも3.1ポイント低い。	・伴って変わる数の関係を用いて考えられる場面を日常から見だし、意図的に数量関係を求めさせるなど、習熟を図っていく。 ・記述式の問題に触れる機会を増やし、異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりすることに慣れさせる。
D データの活用	・領域の正答率は62.1%で、全国よりも0.5ポイント低い。 ○簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかをみる問題の正答率は77.9%で、全国よりも6.3ポイント高い。 ●目的に応じて適切なグラフを選択し、選択した理由を言葉や数を用いて記述する問題の正答率は27.9%で、全国よりも3.1ポイント低い。	・日常生活において、普段から表やグラフを見て情報を読み取る機会を増やすことに加えて、読み取った結果や数値について、計算や言葉を用いて友達に説明できるようにする。

宇都宮市立雀宮中央小学校第6学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	45.6	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	53.7	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	59.9	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	68.4	67.9	66.7
観点	知識・技能	59.0	57.5	55.3
	思考・判断・表現	59.8	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<p>・領域の正答率は45.6%で、全国よりも1.1ポイント低い。</p> <p>○乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ問題の正答率は58.8%で、全国よりも3.7ポイント高い。</p> <p>●電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻き数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる問題の正答率は67.6%で、全国よりも10.4ポイント低い。</p>	<p>・電磁石の強さを強くする方法について、誤答の内容を見ると、問われている内容、答え方を理解することが難しかったことが推測される。普段から、実験結果を考察する際に、使用する科学的な用語をいくつか指定して書くようにしたり、対話的な活動を取り入れたりして、得られた結果を論理的に説明する力の育成を図っていく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>・領域の正答率は53.7%で、全国よりも2.3ポイント高い。</p> <p>○水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる問題の正答率は73.5%で、全国よりも9.3ポイント高い。</p> <p>●身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる問題の正答率は11.8%で、全国よりも1.2ポイント高いが、正答率がとても低く、課題があると言える。</p>	<p>・金属は電気を通す性質があることの理解が不十分であったので、金属は電気を通す性質があること、金属の中でも鉄は磁石に引き付けられる性質があることについて、復習問題で確認する。また、できるだけ体験を伴った理解ができるよう、実験する時間を十分確保し、鉄、銅、アルミニウム、それぞれの金属について、電気を通す、磁石につくなど、性質の理解を深め、定着を図るようにする。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>・領域の正答率は59.9%で、全国よりも7.9ポイント高い。</p> <p>○ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる問題の正答率は79.4%で、全国よりも8.7ポイント高い。</p> <p>○顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる問題の正答率は60.3%で、全国を大きく上回り、14.7ポイント高い。</p> <p>●レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる問題の正答率は30.9%で、全国よりも1.0ポイント高いが、正答率が低い。また、無解答率は全問題の中で最も高く、17.6%である。</p>	<p>・複数の植物(インゲンマメ、ヘチマ、レタス)の発芽条件を調べる実験で、「植物による条件の違いをどう調べるか」という問いの正答率が低かった。インゲンマメの発芽条件は理解しているものの、その知識を他の植物にも当てはめて考えたり、「なぜ複数の植物で比べるのか(比較実験の意味)」を理解したりすることに課題があるので、今後の指導では、比較実験の重要性をしっかりと理解させるとともに、予想通りにいかないときに「他の条件も調べてみよう」と多角的に考える力を育てていく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>・領域の正答率は68.4%で、全国よりも1.7ポイント高い。</p> <p>○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題の正答率は82.4%で、全国よりも2.9ポイント高い。</p> <p>●赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる問題の正答率は58.8%で、全国よりも1.7ポイント低い。</p>	<p>・「赤玉土の粒の大きさによって水のしみこみ方が違う」とことは理解できても、それを文章で論理的に説明することに課題が見られた。今後の授業では、毎回のまとめの時間に、科学的な根拠と結びつけて実験結果を考察し、文章で表現する活動を継続的にを行い、記述する力を育てていく。</p>

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の授業以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に1時間以上と回答した児童の割合は62.9%で、全国よりも8.9ポイント高い。「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に1時間以上と回答した児童の割合は67.1%で、全国を大きく上回り、20.0ポイント高い。毎年配付している「家庭学習の手引き」を活用した指導や、家庭学習強化週間を年に2回行い、学校と家庭で児童の学習を支援できている様子が伺える。今後も家庭と協力して、家庭学習の習慣化を図りたい。

○「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は48.5%で、全国よりも9.1ポイント高い。本校の特色の1つでもある自治会や育成会、放課後子ども教室などの地域の教育力が高い傾向にあることが分かる。

○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は95.7%で、全国よりも12.4ポイント高い。児童が中心となって学級の課題解決に向けて話し合いが行われていることが伺える。今後も、互いのよさを生かした活動が行えるよう、支援を続けていきたい。

○「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は100.0%で、全国よりも12.0ポイント高い。日々の授業で対話的な学びが実践されていることが分かる。

●「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は67.2%で、全国を大きく下回り、14.7ポイント低い。また、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は85.8%で、全国よりも5.2ポイント低い。就寝時刻が遅くなることで、起床時刻も不規則な児童が多い様子が伺える。規則正しい生活を送ることの大切さを折に触れて伝えていきたい。

●「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、分からないことがあった時に、すぐ調べることができる」の質問に肯定的に回答した児童の割合は80.0%で、全国よりも9.2ポイント低い。児童の疑問に対して、タブレットや辞書などのツールの使い方を教え、調べる時間を設定していきたい。

●「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できていますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は54.3%で、全国よりも8.9ポイント低い。天気や植物だけでなく、料理や節電・節水など、私たちの周りの世界が理科と関連していることを伝えるなど、学んだ知識を「知っている」だけでなく「使える」ようにする支援をしていきたい。

宇都宮市立雀宮中央小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
ねらいの明確化と児童自身での目標の設定による学ぶ意欲の向上	教師が授業の導入でねらいを明確に示したり、児童自身が目標を設定したりすることにより、児童が学習の見通しをもち、主体的に学習に取り組めるようにしている。	「分からないことやわくわく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は85.7%で、全国よりも4.0ポイント高い。
個別最適な学び・協働的な学びの充実を目指した授業づくり	協働学習ソフトやワークシート等、児童が学習方法や教材を選択できるようにしたり、発展的な課題に取り組めるように教材を用意したりしている。また、ペアやグループ学習を積極的に行い、児童が考えを深め合えるようにするための授業づくりに努めている。	「5年生までに受けた授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていたか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は87.1%で、全国よりも3.7ポイント高い。 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問に回答した児童の割合は88.5%で、全国よりも3.6ポイント高い。
振り返りの時間の確保	授業の終末に、児童一人一人が本時の振り返りを行い、ノートやワークシートに記述する時間を設けている。	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は80.0%で、全国よりも0.6ポイント高い。 「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると感じますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は90.0%で、全国よりも7.5ポイント高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査では、「提示された文章や図表等から根拠となる部分を見つけて文章でまとめる」、「指定された条件で自分の考えを明確にして書く」といった記述問題において、正答率が低い、または無解答率が高いという傾向が見られる。	考えを説明したり書いたりする表現力の育成	資料から自分の意見の根拠となる部分を引用したり、決められた文字数や段落数で自分の考えを文章でまとめたりする活動や、筋道立てた説明、結果や考察の記述など、各教科で書く活動を意図的に取り入れる。また、学び合いの場では、自分の意見を友達に分かりやすく説明することを意識させる。